

北四十萬の山麓寺屋敷といふ所であらうといはれる。大仙寺は富樫成春の法號であるから、成春の創建したものか、又はその菩提の爲に起したものであらう。

**ダイソ** 大素 ↓アサミダイソ 朝見大素。

**ダイチ** 大智 ↓ソケイダイチ 祖繼大智。

**ダイチゼンジンギヨウロク** 大智禪師行録

一册。享保二年肥後の僧某著。石川郡吉野村鳳凰山祇陀寺の開山大智禪師の傳で、聯燈錄に記するよりも精密であり、異點も多い。

**ダイチゼンジンゲシヨウ** 大智禪師偈頌 二册。祇陀寺の開祖大智禪師の偈集である。又別に袖珍大智偈頌一册は元祿三年に上梓せられてゐる。更に文化中禪師四百五十回忌に當つて、津田鳳卿が世本の誤を正し刊行したのも一册があつて、それには卷末に逸偈をも集めてある。

**タイチヨウ** 泰澄 泰澄は越前國麻生津の人で、白鳳十年を以て生まれた。泰澄幼にして夙く三寶を崇敬し、十四歳にして州の越知山に登り、巖洞中に起居して備に苦楚を嘗め、遂に自ら薙髮して比丘と爲つた。泰澄常に藤衣を纏ひ、松葉を食ひ、専ら十一面觀音の名號を唱へて修懺年を積んだから、能く智解を發得して、自然に密乗を感悟したといひ、時人彼を崇びて越の大徳と稱した。その後靈徳忽ち朝廷の聞く所となり、法驗大に世に著れた。大寶中泰澄は近畿諸高山に攀ぢ、大和を経て山城に入り、役の小角と共に謀つて愛宕山を開いたが、後小角の竄せられるに及び、還つて北陸を行脚し、終に白山の絶巔を究めて、こゝに修行すること多年であつた。神龜二年行基も亦白山に登り、泰澄を見て曾て相

識る者の如く、行基は懇に白山の靈應を問ひ、泰澄は詳かに之に答へたとある。泰澄の白山に登り、神龜と相接觸した状態は、之を元亨釋書に述べてゐるが、固より眞偽明らかでない。泰澄の父を安角といふも、ヤズミから案出した洒落ではないかと思はれる。

**タイチヨウ** 諦聽 金澤眞宗東派西福寺の住職。寮司に任せられた。文化八年九月十三日示寂、享年不詳。法名は影護院昭慶。

**タイチヨウカガミノマキ** 泰澄鏡之卷 一册。一名白山縁起。養老元年泰澄が白山に登つて神靈の出現を見た次第が書いてあり、卷尾に『神龜元年甲子六月十八日泰澄沙門判。寶代坊・石京進安本兩人相渡』とあつて、泰澄の自撰だといふのであるが、元亨釋書に據る賢作である。金子有斐の白山遊覽圖記に、能美郡尾添村に存する泰澄記といふものを引用してあるが、それも泰澄鏡之卷のことである。

**タイチヨウキ** 泰澄記 ↓タイチヨウカガミノマキ 泰澄鏡之卷。

**タイチヨウコウ** 泰澄講 白山宮にあつた講名で、白山宮莊嚴講中記録觀應二年六月十五日條に見える。

**ダイテツソウリヨウ** 大徹宗令 曹洞宗の僧。大隅の人。弱冠にして出家受戒し、後遍く叢席に侍して悟入することを得なかつたが、遂に法を總持寺の峨山紹領に問うて徹底した。後五哲の一に數へられ、總持寺を主り、應永十五年正月廿五日七十六歳を以て寂した。

**タイテンダカ** 退轉高 ↓ミステダカ 見捨高。

**タイトウ** 帶刀 藩政の時の帶刀は、朝服

を着する時は卷柄又は鞘卷の太刀を帶し、或は小姓をして捧げしめ、大紋直垂・素襖又は長上下の時は小刀を帶した。麻上下でも、儀式の時は小刀であることがあつた。小刀には必ず小柄と笄とを挿む兩室がある。但し刀にも兩室のあるものもある。刀及び脇指は併せて大小といひ、脇指には小柄を挿む片室がある。加賀藩で儀式又は藩侯の供方に列する時は、刀の柄頭と鞘の小尻に角質を用ひ、黒塗とし、切小尻に作り、脇指は丸小尻に作つた。鞘の塗色は凡べて黒蠟色で、柄糸も黒色に限られた。併し稽古場の往返又は野邊指には、太刀造・金具小尻・色塗鞘・白又は色柄糸も隨意であつた。具足に陣太刀を帶びる時は、脇指がなく、一尺二三寸以下の右手指を添へた。士分から歩に至るまで、平生皆兩刀を帶びるが、狩獵の際には殺生刀一腰でも良かつた。足輕は通常一刀であり、仲間・小者は無刀で、參勤の行列にのみ脇指を帶した。因に帶刀に關する古法令には、慶長十六年のものに、『御家中刀の事、侍・小者によらず、柄・鞘にかけて三尺七寸、並脇指を柄・さやかけて二尺五寸に御定候。此外長く致者有之者可爲曲言事。』又萬治二年のものに、『上下共に、刀柄・鞘かけて三尺五寸、脇差同二尺五寸より長はさし間敷事。附、朱鞘・かいらぎのさや・大鐔・角鐔、其外かぶきたる拵仕間敷事。』といふのがある。町人・百姓も特殊の待遇を受けるものは兩刀又は一刀を帶したが、明治三年十二月廿四日庶人の帶刀を禁じ、四年八月九日士族の脱刀を許し、九年三月軍人・警察官等が制服着用の場合の外一般に帶刀を禁じた。

**ダイドウ** 大道 眞宗東派の僧。敦賀唯願寺に生まれたが、江沼郡塩屋西榮寺の靈觀がその實兄たるを以て、多くこゝに住した。大道詩書を能くして水雲子と號し、生涯獨身で、天正十一年二月十二日七十二を以て越前に歿した。

**ダイトウケイジヨ** 大透圭徐 曹洞宗の僧。尾張の人、戸田氏。出家して越前高瀬の寶圓寺に至り、直鷹正叡の法を嗣ぎ、總持寺に上り、次いで龍泉寺に主となり、又寶圓寺を重した。前田利家の能登を領するに及び、又寶圓寺を頼めて圭徐を迎へ、天正十一年金澤に護國山寶圓寺を起して之を主とした。十五年圭徐利家に告げて總持寺の荒廢を復し、文祿三年金澤の寶圓寺を退きて能登の寶圓寺に入り、寺號を改めて長壽寺とした。慶長三年九月二十日寂、享年七十四。

**ダイドウジンホシゲ** 大道寺直重 上野松枝の城主大道寺政繁の子。新四郎・玄蕃頭と稱し、初め父と共に北條氏に仕へた。天正十八年關東の役に前田軍に降し、後利政に仕へて大聖寺攻城に奮戦功を立てたが、利政の封を除かれるに及び、利長の徵をも辭して去り、寛永五年冬歿した。その子孫は尾張侯に仕へて老臣に至つた。

**ダイドウジンホシゲ** 大道寺直重 上野松枝の城主大道寺政繁の子。新四郎・玄蕃頭と稱し、初め父と共に北條氏に仕へた。天正十八年關東の役に前田軍に降し、後利政に仕へて大聖寺攻城に奮戦功を立てたが、利政の封を除かれるに及び、利長の徵をも辭して去り、寛永五年冬歿した。その子孫は尾張侯に仕へて老臣に至つた。

**ダイドウジンホシゲ** 大道寺直重 上野松枝の城主大道寺政繁の子。新四郎・玄蕃頭と稱し、初め父と共に北條氏に仕へた。天正十八年關東の役に前田軍に降し、後利政に仕へて大聖寺攻城に奮戦功を立てたが、利政の封を除かれるに及び、利長の徵をも辭して去り、寛永五年冬歿した。その子孫は尾張侯に仕へて老臣に至つた。

**ダイドウジンホシゲ** 大道寺直重 上野松枝の城主大道寺政繁の子。新四郎・玄蕃頭と稱し、初め父と共に北條氏に仕へた。天正十八年關東の役に前田軍に降し、後利政に仕へて大聖寺攻城に奮戦功を立てたが、利政の封を除かれるに及び、利長の徵をも辭して去り、寛永五年冬歿した。その子孫は尾張侯に仕へて老臣に至つた。

**ダイドウジンホシゲ** 大道寺直重 上野松枝の城主大道寺政繁の子。新四郎・玄蕃頭と稱し、初め父と共に北條氏に仕へた。天正十八年關東の役に前田軍に降し、後利政に仕へて大聖寺攻城に奮戦功を立てたが、利政の封を除かれるに及び、利長の徵をも辭して去り、寛永五年冬歿した。その子孫は尾張侯に仕へて老臣に至つた。

**ダイドウジンホシゲ** 大道寺直重 上野松枝の城主大道寺政繁の子。新四郎・玄蕃頭と稱し、初め父と共に北條氏に仕へた。天正十八年關東の役に前田軍に降し、後利政に仕へて大聖寺攻城に奮戦功を立てたが、利政の封を除かれるに及び、利長の徵をも辭して去り、寛永五年冬歿した。その子孫は尾張侯に仕へて老臣に至つた。

**ダイドウジンホシゲ** 大道寺直重 上野松枝の城主大道寺政繁の子。新四郎・玄蕃頭と稱し、初め父と共に北條氏に仕へた。天正十八年關東の役に前田軍に降し、後利政に仕へて大聖寺攻城に奮戦功を立てたが、利政の封を除かれるに及び、利長の徵をも辭して去り、寛永五年冬歿した。その子孫は尾張侯に仕へて老臣に至つた。

**ダイドウジンホシゲ** 大道寺直重 上野松枝の城主大道寺政繁の子。新四郎・玄蕃頭と稱し、初め父と共に北條氏に仕へた。天正十八年關東の役に前田軍に降し、後利政に仕へて大聖寺攻城に奮戦功を立てたが、利政の封を除かれるに及び、利長の徵をも辭して去り、寛永五年冬歿した。その子孫は尾張侯に仕へて老臣に至つた。

**ダイドウジンホシゲ** 大道寺直重 上野松枝の城主大道寺政繁の子。新四郎・玄蕃頭と稱し、初め父と共に北條氏に仕へた。天正十八年關東の役に前田軍に降し、後利政に仕へて大聖寺攻城に奮戦功を立てたが、利政の封を除かれるに及び、利長の徵をも辭して去り、寛永五年冬歿した。その子孫は尾張侯に仕へて老臣に至つた。

**ダイドウジンホシゲ** 大道寺直重 上野松枝の城主大道寺政繁の子。新四郎・玄蕃頭と稱し、初め父と共に北條氏に仕へた。天正十八年關東の役に前田軍に降し、後利政に仕へて大聖寺攻城に奮戦功を立てたが、利政の封を除かれるに及び、利長の徵をも辭して去り、寛永五年冬歿した。その子孫は尾張侯に仕へて老臣に至つた。

**ダイドウジンホシゲ** 大道寺直重 上野松枝の城主大道寺政繁の子。新四郎・玄蕃頭と稱し、初め父と共に北條氏に仕へた。天正十八年關東の役に前田軍に降し、後利政に仕へて大聖寺攻城に奮戦功を立てたが、利政の封を除かれるに及び、利長の徵をも辭して去り、寛永五年冬歿した。その子孫は尾張侯に仕へて老臣に至つた。

**ダイドウジンホシゲ** 大道寺直重 上野松枝の城主大道寺政繁の子。新四郎・玄蕃頭と稱し、初め父と共に北條氏に仕へた。天正十八年關東の役に前田軍に降し、後利政に仕へて大聖寺攻城に奮戦功を立てたが、利政の封を除かれるに及び、利長の徵をも辭して去り、寛永五年冬歿した。その子孫は尾張侯に仕へて老臣に至つた。

**ダイドウジンホシゲ** 大道寺直重 上野松枝の城主大道寺政繁の子。新四郎・玄蕃頭と稱し、初め父と共に北條氏に仕へた。天正十八年關東の役に前田軍に降し、後利政に仕へて大聖寺攻城に奮戦功を立てたが、利政の封を除かれるに及び、利長の徵をも辭して去り、寛永五年冬歿した。その子孫は尾張侯に仕へて老臣に至つた。

**ダイドウジンホシゲ** 大道寺直重 上野松枝の城主大道寺政繁の子。新四郎・玄蕃頭と稱し、初め父と共に北條氏に仕へた。天正十八年關東の役に前田軍に降し、後利政に仕へて大聖寺攻城に奮戦功を立てたが、利政の封を除かれるに及び、利長の徵をも辭して去り、寛永五年冬歿した。その子孫は尾張侯に仕へて老臣に至つた。

**ダイドウジンホシゲ** 大道寺直重 上野松枝の城主大道寺政繁の子。新四郎・玄蕃頭と稱し、初め父と共に北條氏に仕へた。天正十八年關東の役に前田軍に降し、後利政に仕へて大聖寺攻城に奮戦功を立てたが、利政の封を除かれるに及び、利長の徵をも辭して去り、寛永五年冬歿した。その子孫は尾張侯に仕へて老臣に至つた。

**ダイドウジンホシゲ** 大道寺直重 上野松枝の城主大道寺政繁の子。新四郎・玄蕃頭と稱し、初め父と共に北條氏に仕へた。天正十八年關東の役に前田軍に降し、後利政に仕へて大聖寺攻城に奮戦功を立てたが、利政の封を除かれるに及び、利長の徵をも辭して去り、寛永五年冬歿した。その子孫は尾張侯に仕へて老臣に至つた。

**ダイドウジンホシゲ** 大道寺直重 上野松枝の城主大道寺政繁の子。新四郎・玄蕃頭と稱し、初め父と共に北條氏に仕へた。天正十八年關東の役に前田軍に降し、後利政に仕へて大聖寺攻城に奮戦功を立てたが、利政の封を除かれるに及び、利長の徵をも辭して去り、寛永五年冬歿した。その子孫は尾張侯に仕へて老臣に至つた。

**ダイドウジンホシゲ** 大道寺直重 上野松枝の城主大道寺政繁の子。新四郎・玄蕃頭と稱し、初め父と共に北條氏に仕へた。天正十八年關東の役に前田軍に降し、後利政に仕へて大聖寺攻城に奮戦功を立てたが、利政の封を除かれるに及び、利長の徵をも辭して去り、寛永五年冬歿した。その子孫は尾張侯に仕へて老臣に至つた。

**ダイドウジンホシゲ** 大道寺直重 上野松枝の城主大道寺政繁の子。新四郎・玄蕃頭と稱し、初め父と共に北條氏に仕へた。天正十八年關東の役に前田軍に降し、後利政に仕へて大聖寺攻城に奮戦功を立てたが、利政の封を除かれるに及び、利長の徵をも辭して去り、寛永五年冬歿した。その子孫は尾張侯に仕へて老臣に至つた。

**ダイドウジンホシゲ** 大道寺直重 上野松枝の城主大道寺政繁の子。新四郎・玄蕃頭と稱し、初め父と共に北條氏に仕へた。天正十八年關東の役に前田軍に降し、後利政に仕へて大聖寺攻城に奮戦功を立てたが、利政の封を除かれるに及び、利長の徵をも辭して去り、寛永五年冬歿した。その子孫は尾張侯に仕へて老臣に至つた。

**ダイドウジンホシゲ** 大道寺直重 上野松枝の城主大道寺政繁の子。新四郎・玄蕃頭と稱し、初め父と共に北條氏に仕へた。天正十八年關東の役に前田軍に降し、後利政に仕へて大聖寺攻城に奮戦功を立てたが、利政の封を除かれるに及び、利長の徵をも辭して去り、寛永五年冬歿した。その子孫は尾張侯に仕へて老臣に至つた。

**ダイドウジンホシゲ** 大道寺直重 上野松枝の城主大道寺政繁の子。新四郎・玄蕃頭と稱し、初め父と共に北條氏に仕へた。天正十八年關東の役に前田軍に降し、後利政に仕へて大聖寺攻城に奮戦功を立てたが、利政の封を除かれるに及び、利長の徵をも辭して去り、寛永五年冬歿した。その子孫は尾張侯に仕へて老臣に至つた。

**ダイドウジンホシゲ** 大道寺直重 上野松枝の城主大道寺政繁の子。新四郎・玄蕃頭と稱し、初め父と共に北條氏に仕へた。天正十八年關東の役に前田軍に降し、後利政に仕へて大聖寺攻城に奮戦功を立てたが、利政の封を除かれるに及び、利長の徵をも辭して去り、寛永五年冬歿した。その子孫は尾張侯に仕へて老臣に至つた。